韓国女性の非婚志向における特徴
―30 歳代女性のインタビュー調査から―

柳采延（東京大学）

1. 背景と目的

韓国統計庁の「婚姻・離婚統計」によると 2019 年の婚姻率（人口千人当たりの婚姻件数）は 4.7 で、1970 年（9.2）の統計作成以来最低の数値となった。その後の 2020 年はさらに 0.5 下落した 4.2 を記録した。全体の婚姻件数で見ると、2019 年は前年度より 7.2%（-18500 件）減少した 23 万 9200 件、2020 年には前年度より 10.7% 減少した 21 万 4000 件となった。また、婚姻に対する意識に関しては、統計庁の「2020 社会調査」の結果によると、13 歳以上の人口の中で結婚を必須と考える割合は、未婚男性で 40.8%、未婚女性で 22.4%という男女差があった。また、コーホート別の未婚率の推移を分析してみると、男性よりも女性のほうにおいて世代間の様相の違いが顕著にあらわれている。

韓国における「非婚」に関する学問的関心は 1990 年代以降のことである。初期の研究においては、高学歴・高収入女性の自発的非婚と、低収入女性の非自発的未婚で類型化される傾向があった。2000 年代以降は、U・ベックの「個人化」論が適用できるか否かという視点をはじめ、「非婚」となる社会文化的背景・要因の男女差、一人世帯に関する政策的課題などといった観点から議論されてきた。近年は婚姻のみならず、若年層女性たちの非婚主義をもたらす非恋愛主義（恋愛と家父長制を問題とする視点）にも注目した研究が見られる。これらを年齢層別に見ると、個人化論には還元できない特徴（家族主義による非婚など）は 40～50 歳代の女性たちに見られ、「家父長制ボイコット」としての非婚・非恋愛という側面は 10～20 歳代の女性たちがその主体とされる。

本研究ではより多様な生活世界が存在するという問題意識から、現在の韓国の 30 歳代女性たちがどのような社会的背景・個人的経験を通じて非婚志向を形成しているかを考察する。

2. 調査の対象と方法

本調査では「非婚」の定義を、婚姻していない状態、かつ「婚姻しない人生設計を持つこと」とし、そのような考えを持つ女性たちをインタビューした。本報告の分析で用いるのは、2020 年 10 月～2021 年 5 月にインタビューした 8 人の女性たちによる語りである。具体的には韓国社会でもっとも結婚への移行が多い年齢層である 20 歳代後半の年齢を過ぎた 30 歳代の女性たち（主に 1980 年代生まれ～1990 年代前半生まれ）を対象とした。理想的に思うライフコースに関する価値観の変化過程、ほかのライフコースに対する認識などを中心とし、一人当たり 2～3 時間の半構造化インタビューを行った。

3. 展望

本調査の女性たちは現在の韓国社会のラディカル・フェミニストの運動的流れとなっている非婚／非恋愛主義とは距離を取りながらも、ジェンダー感受性の実践や要求が日常的なものになっていることを示した。

本報告では、労働に対する意識、「家族」に関する意識、親密性などを中心に考察を展開する。

【謝辞】本研究は JSPS 科研費 JP20K22162 の助成を受けたものです。

キーワード：韓国、女性、非婚志向